

日本教育メディア学会
学 会 通 信 第 46 号

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>
2008年9月21日発行

事務局
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学教育学研究室内
電話:042-329-7344
E-mail:shijaems@u-gakugei.ac.jp

2008年度定例総会開催通知（会告）

下記により、2008年度 日本教育メディア学会定例総会を開催致します。会員各位のご参加をお願い致します。なお、ご参加のない場合には、同封の委任状はがきにお名前・議案の賛否・ご捺印の上、50円切手を貼って、10月14日（火）必着で、学会事務局あて折り返しご投函ください。

記

正会員各位

2008年9月20日
日本教育メディア学会
会長 生田 孝至

1. 日 時 : 2008年10月19日（日） 12:30~13:10 （第2日目）
2. 会 場 : 愛知淑徳大学5号棟<511教室>(ECホール南)
3. 第1号議案（2007年度事業報告及び収支決算承認の件）
 - ①機関誌発行
 - ②年次大会の開催
 - ③学術交流等—研究会等の開催
 - ④2007年度収支決算（案）、監査報告（第2ページ参照）
4. 第2号議案（2008年度事業計画及び収支予算承認の件）
 - ①機関誌発行
 - ②年次大会の開催
 - ③学術交流等—研究会等の開催
 - ④2008年度収支予算書（案）（第3ページ参照）
5. 第3号議案（「理事選挙規定（含、会長選挙規定）」改正に伴う「会則」改正承認の件）
（第3ページに改正の要旨。具体案は、当日配布資料参照）
6. 表彰「日本視聴覚教育協会・井内賞」審議経過と結果報告
7. 2009年度年次大会
8. その他

第1号議案

日本教育メディア学会平成19年度会計収支決算(案)

自:平成19年4月1日～至:平成20年3月31日

(1)収入の部

収入項目	収入額	備考
	円	
繰越金	887,042	平成18年度会計から繰り入れ
正会員会費	1,295,000	¥7000 185人 318人×納入率60%
学生会員会費	48,000	¥4000 12人 40人×納入率30%
団体会員会費	300,000	¥50000 6団体 7団体×納入率86%
購読会員会費	42,000	¥7000 6団体 8団体×納入率75%
過年度正会員会費	217,000	¥7000 31人 60人×納入率50%
過年度学生会員会費	0	¥4000 0人 12人×納入率0%
過年度団体会員会費	250,000	¥50000 5団体 12団体×納入率42%
新入会金	54,000	正会員17人、学生会員7人、購読会員3団体
学会費前納分	124,000	平成20年度学会前受金18(含、正会員14、学生会員2、新入会員2)
助成金	0	助成団体から国際研究会への助成金
雑収入	508,988	『教育メディア研究』別刷、会誌販売
利子	1,205	銀行口座および郵便貯金口座利子
計	3,727,235	

(2)支出の部

科目	当初予算額	支出額	増減額	備考
	円	円	円	
通信運搬	150,000	36,670	113,330	学会誌・別刷・学会通信・会員名簿一郵送費
消耗品	50,000	19,920	30,080	事務用品
設備・什器	60,000	38,640	21,360	コンピュータ周辺機器(含、パソコンリース代)
印刷製本	1,800,000	1,352,714	447,286	学会誌/別刷(2号分)、学会通信(3号分)・会員名簿印刷・製本・発送
会議費	50,000	22,705	27,295	理事会・編集委員会・監査・事務局会議費
国際会議開催補助費	100,000	0	100,000	国際会議(ICOM)開催補助費
借損料	50,000	0	50,000	定例理事会・編集委員会会議場借料
旅費	150,000	110,080	39,920	常任理事会・常任編集委員会・事務局旅費
諸謝金	350,000	198,400	151,600	英文校閲謝金・事務局員補助謝金
年次大会委託費	400,000	379,018	20,982	年次大会(秋田大学)
研究会委託費	290,000	370,000	▲80,000	研究会(3回)
雑費	10,000	4,985	5,015	振込・送金手数料
返還金	0	6,000	▲6,000	別刷代金超過請求
予備費	100,042	32,025	68,017	慶弔費
繰越金	0	1,156,078	▲1,156,078	平成20年度会計に繰り入れ
計	3,560,042	3,727,235	▲167,193	

(3) 坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞特別会計決算

平成18年度からの繰越金(含、利子)	円
	100,010
平成19年度研究奨励賞(支出額)	100,000
銀行利子	312
残高	322
解約し、322円を一般会計へ繰り入れ後の残高	0

収支決算書は、南部昌敏、芝崎順司両監事の会計監査を受け、適正と認められた。

第2号議案

日本教育メディア学会平成20年度会計予算(案)

自:平成20年4月1日～至:平成21年3月31日

(1)収入の部

収入項目	収入額	備考
	円	
繰越金	1,156,078	平成19年度会計から繰り入れ
正会員会費	1,260,000	¥7000 180人 301人×納入率60%
学生会員会費	96,000	¥4000 24人 45人×納入率50%
団体会員会費	200,000	¥50000 4団体 7団体×納入率60%
購読会員会費	35,000	¥7000 5団体 9会員×納入率60%
過年度正会員会費	294,000	¥7000 42人 平成17～19年度84人×納入率50%
過年度学生会員会費	72,000	¥4000 18人 37人×納入率50%
過年度団体会員会費	100,000	¥50000 2団体 5団体×納入率50%
新入会員会費	90,000	正会員@9000円×10人
雑収入	300,000	『教育メディア研究』別刷、会誌
計	3,603,078	

(2)支出の部

科目	予算額	備考
	円	
通信運搬	50,000	学会誌・別刷・学会通信一郵送費
消耗品	30,000	事務用品
設備・什器	20,000	コンピュータ周辺機器
印刷製本	2,100,000	学会誌／別刷(3号分)、学会通信(3号分)一印刷・製本・発送
会議費	30,000	理事会・編集委員会・監査・事務局会議費
国際会議開催補助費	100,000	国際会議(ICOM)開催補助費
借損料	60,000	定例理事会・編集委員会会議場借料
旅費	200,000	常任理事会・常任編集委員会・井内賞委員会・事務局旅費
諸謝金	350,000	英文校閲謝金・事務局員補助謝金
年次大会委託費	400,000	年次大会(愛知淑徳大学)
研究会委託費	210,000	研究会(3回)
雑費	10,000	振込・送金手数料
返還金	0	
予備費	43,078	
繰越金	0	平成21年度会計に繰り入れ予定
計	3,603,078	

第3号議案

「理事選挙規定(含、会長選挙規定)」改正に伴う「会則」改正

改正の要旨は、会長及び理事選挙を、それぞれ正会員による直接選挙とする現行「理事選挙規定」の改正にともなう、「会則」の改正。

改正の具体案は、総会当日、配布する。

第 15 回日本教育メディア学会年次大会のご案内

10月18日、19日の両日に、本学会の年次大会を愛知県長久手町の愛知淑徳大学長久手キャンパスで開催いたします。過日、研究発表の募集をいたしましたところ、例年を上回るたくさんのお申込をいただき、整理と準備に追われる毎日です。感謝申し上げますとともに、当日は大会で活発な交流が行われることを期待しております。またご発表のない方も議論に加わり、盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

(大会実行委員会)

▼開催期日・会場等

期日： 平成20年10月18日(土)、19日(日)

会場： 愛知県愛知郡長久手町

①研究発表：愛知淑徳大学長久手キャンパス(愛知郡長久手町長湫片平9)

②懇親会：同上

▼大会日程

	時間	プログラム	会場
前日(10/17)	16:00~18:00	学会編集委員会	ダイテック栄会議室5B (地下鉄東山線・栄駅5分)
	18:00~20:00	学会理事会	
第1日(10/18)	9:00~	ワークショップ受付	2号棟1階
	9:30~11:30	ワークショップ	833
	11:30~12:30	昼食	控室(221) 展示室(223)
	11:30~	受付	2号棟1階
	13:30~15:30	自由研究1・2・3・4	324、325、232、233
	15:45~17:30	課題研究I・II	324、325
	18:00~20:00	懇親会	サロンシーボー前テラス
第2日(10/19)	9:00~	受付	2号棟1階
	9:30~11:30	自主シンポジウム	824
		自由研究5・6・7・8	324、325、232、233
	11:30~12:30	昼食	控室(221) 展示室(223)
	12:30~13:10	総会	511(ECホール南)
	13:20~14:50	大会シンポジウム	
15:00~16:45	課題研究III・IV	324、325	

▼大会参加者へのご案内

1. 受付

受付場所……2号棟1階・階段前

受付時間……10月18日(土)は11:30～、19日(日)は9:00～

大会参加費等

一般会員(発表論文集代を含む)	5,500円
学生会員(発表論文集代を含む)	3,500円
一般(非会員)参加者(発表論文集代を含む)	4,000円
懇親会費	4,500円
発表論文集追加	2,500円(別途送料500円)

名札……受付で名札をお渡しします。所属及び氏名をご記入の上、大会期間中の会場内では必ず名札をお付け下さい。

※事前の参加申込は、9月5日(金)をもって締め切りました。参加費の払込がまだの方は、当日受付にてお支払い下さい。

2. 参加者控室

参加者の控室は221教室にご用意しました。また湯茶等は控え室にてご用意します。なお学内は、禁煙になっておりますので、指定場所にてご喫煙下さい。

3. 総会

10月19日(日)12:30～13:10に、511教室(ECホール南)で総会を行います。

4. 懇親会

10月18日(土)18:00～20:00に、長久手キャンパス・サロンシーボー前テラスで懇親会を開催いたします。皆様お誘い合わせの上ご参加下さい。会費は4,500円です。

5. 昼食・宿泊

大会会場は市街地から離れていることもあり、会場周辺にはレストラン等は多くなく、ご不便をおかけしますことを、予めご了承ください。なお会場にてお弁当の販売をいたしますので、事前ご予約をお願いします。また近隣にコンビニエンスストアもございますので、ご利用ください。

ご宿泊の手配は各自でお願いします。

なお下記の旅行会社では、みなさまからのお問い合わせに対応しています。

○問い合わせ先 名鉄観光サービス・名古屋中央支店

○住所：〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-2-28 名古屋第二埼玉ビル

○営業時間 9:00～18:00【土・日・祝日休み】 (担当：吉野・加藤・長尾)

○TEL：052-586-4545 FAX：052-586-4050

○Email: takashi.yoshino@mwt.co.jp

▼研究発表者（課題研究・自由研究）へのご案内

1. 発表までの準備

- ・発表者（登壇者）は本学会の会員であることが必要条件です。2008年度の年会費の納入がお済みかどうか、今一度ご確認ください。未納の方は、学会事務局受付でお払い込み下さい。
- ・会員1名が発表できる件数は、課題研究1件、自由研究1件、計2件までです。
- ・発表申込は、8月8日（金）をもって締め切りました。
- ・原稿送付は、9月5日（金）をもって締め切りました。

2. 発表当日

- ・各会場には、セッションの進行を行う「座長」（課題研究は「コーディネータ」）と「係員」を置きます。
- ・自由研究の発表時間は1件あたり20分（発表15分、質疑応答4分、交代1分）とします（申込件数が予想を上回り、当初の予定より短縮されています。ご了承ください）。

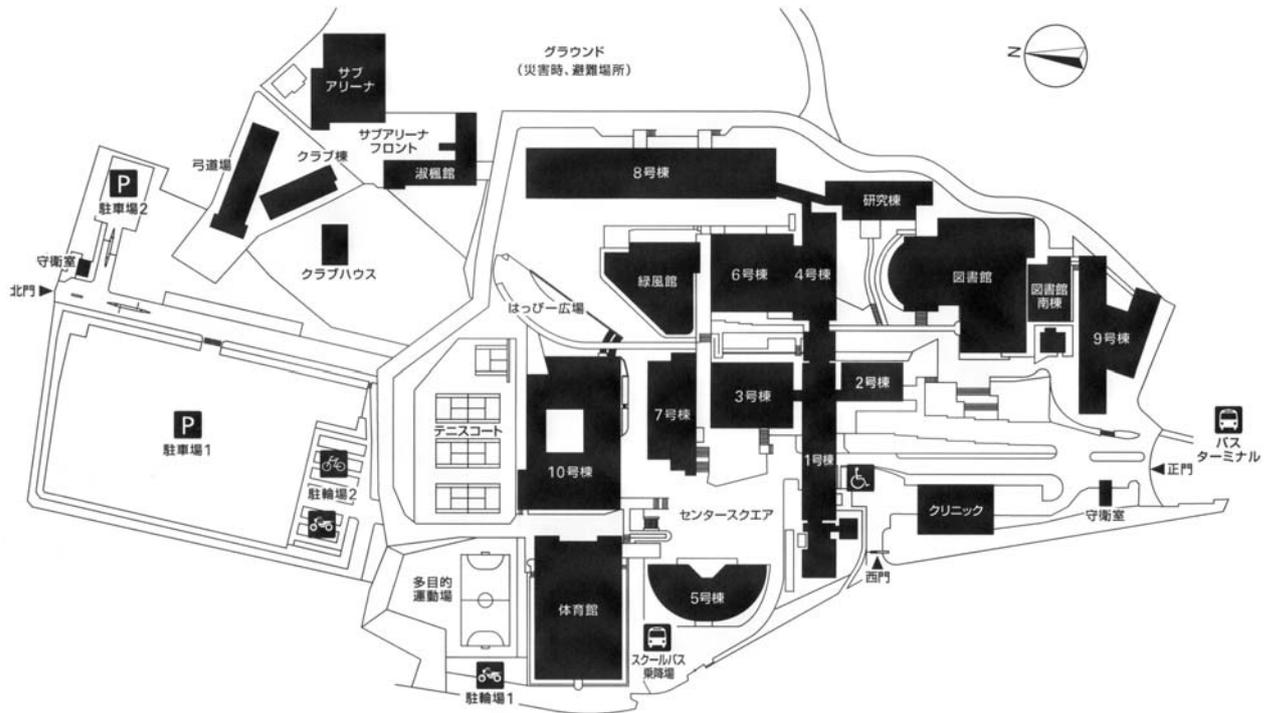
12分経過＝1鈴（発表終了3分前）
15分経過＝2鈴（発表終了）
19分経過＝3鈴（質疑終了、交代）

係員が、12分で1鈴、15分で2鈴、19分で3鈴の合図をします。発表時間の厳守をお願いいたします。
- ・配布資料がある場合、セッション開始前に係員にお渡しください。係員が資料を配布いたします。各自でご用意下さい。
- ・各会場には、MS PowerPointが提示可能なWindowsパソコンとプロジェクタを用意いたします。利用可能な媒体は、USBメモリです。またVHSビデオ、DVDは使用可能です。これ以外の機材（HD、CD、FDなど外付け）、ソフト等を使用する場合は、各自でご準備ください。

座長・コーディネータへお願い

- ・自由研究はセッション毎にお二人の座長をお願いしております。事前にご相談の上、ご進行をお願いいたします。
- ・複数のセッションが同時並行で進みますので、予定時間での進行にご協力をお願いいたします（他のセッションから途中で移動される方がおります）。
- ・急な発表取り消し、欠席者が出た場合にも、発表時刻の繰上げは行わず、空いた時間は座長の裁量で質疑・討論等に当ててください。
- ・課題研究の発表時間等はコーディネータにお任せします。

会場（愛知淑徳大学構内）配置図



研究発表 会場一覧

18日（土）

自由研究 1 (13:30～15:30)	324 (3号棟)
自由研究 2 (13:30～15:30)	325 (3号棟)
自由研究 3 (13:30～15:30)	232 (2号棟)
自由研究 4 (13:30～15:30)	233 (2号棟)
ポスターセッション (13:30～17:30)	222 (2号棟)
※19日も継続	
課題研究 I (15:45～17:30)	324 (3号棟)
課題研究 II (15:45～17:30)	325 (3号棟)

19日（日）

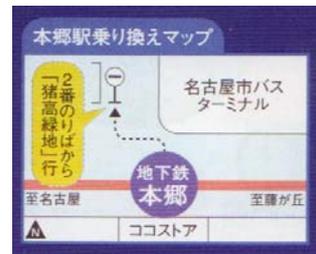
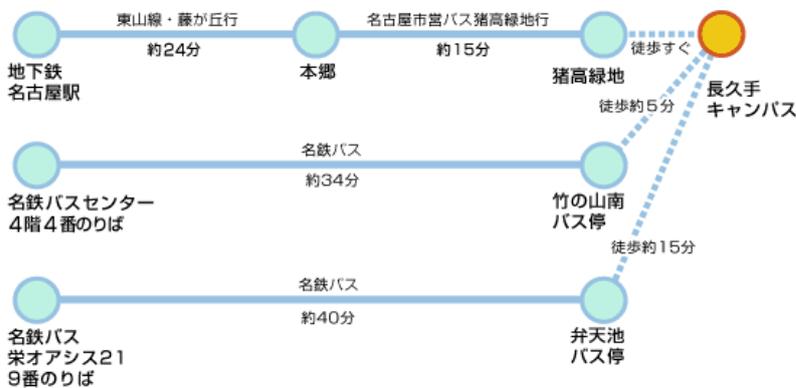
自主シンポジウム (9:30～11:30)	824 (8号棟)
自由研究 5 (9:30～11:30)	324 (3号棟)
自由研究 6 (9:30～11:30)	325 (3号棟)
自由研究 7 (9:30～11:30)	232 (2号棟)
自由研究 8 (9:30～11:30)	233 (2号棟)
総会 (12:30～13:10)	511 (5号棟)
公開シンポジウム (13:20～14:50)	511 (5号棟)
課題研究 III (15:00～16:45)	324 (3号棟)
課題研究 IV (15:00～16:45)	325 (3号棟)

※ ワークショップは、8号棟3階のコンピュータ実習室6 (833)で行います。
場所が分かりにくいので、係のものがご案内いたします。

会場（愛知淑徳大学 長久手キャンパス）へのアクセス



バス停と経路



※最も便数が多く便利なルートは、地下鉄東山線本郷駅下車
 （名古屋駅－本郷駅 24分程度）

※北口バスのりば2番 猪高緑地行き
 （系統 幹本郷1 幹本郷1） 終点下車です
 料金：大人 200 円
 （バス乗車時間 15分程度）

大会当日は、駐車場北門が閉鎖されておりますので、お車での来校は、原則としてお断り
 しています（やむを得ない場合は、正門の守衛室にお立ち寄り下さい）。

バス時刻表

本郷 → 猪高緑地(愛知淑徳大学前) ○印付 …ノンステップバス

時	土 曜	時	土 曜	時	日 休 日	時	日 休 日
6	30 50	15	08 20 32 44 57	6	30 53	15	13 28 43 58
7	10 30 50	16	10 23 35 47 59	7	13 33 53	16	13 29 44 59
8	07 22 37 52	17	11 23 35 48	8	13 28 43 58	17	14 27 39 51
9	07 19 31 43 55	18	01 14 27 40 53	9	13 28 43 58	18	06 21 36 51
10	07 19 31 43 55	19	06 19 33 52	10	13 28 43 58	19	04 19 34 52
11	07 19 31 43 55	20	12 27 47	11	13 28 43 58	20	12 30 48
12	07 19 31 43 55	21	09 27 51	12	13 28 43 58	21	09 28 51
13	07 19 31 43 55	22	20 55	13	13 28 43 58	22	20 55
14	07 19 31 43 55			14	13 28 43 58		

猪高緑地(愛知淑徳大学前) → 本郷

時	土 曜	時	土 曜	時	日 休 日	時	日 休 日
6	30 50	15	08 20 32 44 57	6	30 53	15	13 28 43 58
7	10 30 50	16	10 23 35 47 59	7	13 33 53	16	13 29 44 59
8	07 22 37 52	17	11 23 35 48	8	13 28 43 58	17	14 27 39 51
9	07 19 31 43 55	18	01 14 27 40 53	9	13 28 43 58	18	06 21 36 51
10	07 19 31 43 55	19	06 19 33 52	10	13 28 43 58	19	04 19 34 52
11	07 19 31 43 55	20	12 27 47	11	13 28 43 58	20	12 30 48
12	07 19 31 43 55	21	09 27 51	12	13 28 43 58	21	09 28 51
13	07 19 31 43 55	22	20 55	13	13 28 43 58	22	20 55
14	07 19 31 43 55			14	13 28 43 58		

※ 行き先を確認いただき、ご利用ください。

また都合によって、時間に変更になる場合があります。

大会プログラム・第1日・10月18日（土）

9:30～11:30

ワークショップ(公開・833) 「デジタル教材を活用した授業改善」

コーディネータ：小田茂一

授業へのICTの導入が始まっている。そのなかでデジタル教材は身近になりつつある。デジタル教材をどのように活用すれば、児童とのインタラクティブな授業を生み出し、効果をあげていくことができるのだろうか。

ワークショップでは、NHK学校放送番組に連動した「NHK デジタル教材」の一つ、「見える歴史」(小学6年社会科)を活用した授業の改善を通して、小学校の授業づくりにおけるデジタル教材の効果的な活用について考える。

実践発表

森 昭則 (名古屋市立大須小学校)

番組制作者

船津貴弘 (NHK学校教育番組部)

コメンテータ

亀井美穂子 (相山女学園大学)

13:30～15:30

自由研究1 (324) キーワード：メディアリテラシー メディア理論

座長：小笠原喜康 中橋 雄

J1-1 現職教員を対象としたビジュアル・リテラシー研修プログラムの試み(その2)

○浦野 弘 (秋田大学) 南部昌敏 (上越教育大学)

J1-2 インターネットリテラシーの理論問題 -メディアリテラシーのその先へ-

小笠原喜康 (日本大学)

J1-3 BFI バジャルゲット氏へのメディア教育に関するインタビュー

佐賀啓男 (江戸川大学)

J1-4 メディア・リテラシー教育の指導方法を学び合う SNS の構築

○中橋 雄 (武蔵大学) 盛岡 浩 (関西大学大学院)

前田康裕 (熊本市立飽田東小学校)

J1-5 メディア・リテラシー教育における「異化効果」

朝倉 徹 (東海大学)

第1日・10月18日(土) 13:30~15:30

自由研究2(325) キーワード: 映像制作・実習 肖像権・著作権

座長: 塚本美恵子 大貫恵理子

- J2-1 住民ディレクターの課題: 地域アイデンティティと肖像権
○古川典子(兵庫県立大学院) 大貫恵理子(著作権フォーラム)
宮本節子(兵庫県立大学)
- J2-2 映像制作における著作権課題: 学校現場で求められる権利処理
○大貫恵理子(著作権フォーラム) 宮本節子(兵庫県立大学)
- J2-3 小学校での番組制作授業実践による児童の学びの様相
○菅 勇希(早稲田大学大学院) 関根祐一(所沢市立和田小学校)
保崎則雄(早稲田大学)
- J2-4 文系女子大学での映像制作実習とテレビリテラシー教育の実践
川瀬基寛(甲南女子大学)
- J2-5 制作実践を通して広がる学び —CATV 番組制作から iPod 発信まで—
塚本美恵子(駿河台大学)

13:30~15:30

自由研究3(232) キーワード: 小学校英語 メディア活用 授業実践

座長: 岡部昌樹 佐藤幸江

- J3-1 小学校英語教育におけるメディア教材使用率研究
金野日和(桐蔭学園小学部)
- J3-2 小学校英語教育における放送・ICT利用の可能性~韓国の事例から
渡辺誓司(NHK放送文化研究所)
- J3-3 デジタル教科書の活用が読み取りに与える可能性
○佐藤幸江(横浜市立高田小学校) 中川一史(メディア教育開発センター)
中橋 雄(武蔵大学) 前田康裕(熊本市立飽田東小学校)
- J3-4 フォトリテラシーを育成するパッケージの開発と授業実践
○岡部昌樹(金沢星稜大学) 吉田貞介(金沢学院短期大学)
- J3-5 在留外国人子女のためのアイデンティティを考慮した理科教育の実践的研究
○中丸久一 アルベルト・パラシオス 角替弘規 赤堀正宜(桐蔭横浜大学)

第1日・10月18日(土) 13:30~15:30

自由研究4(233) キーワード:教材・メディア 評価・効果

座長:小田茂一 芝崎順司

- J4-1 メディア教育を支援するWeb教材の質的評価
○盛岡 浩(関西大学大学院) 中橋 雄(武蔵大学) 久保田賢一(関西大学)
- J4-2 eラーニングにおける学習・評価を支援するオンラインビデオシステムの開発
芝崎順司(メディア教育開発センター)
- J4-3 ケータイ小説の教材化に向けた試行的検討
上松恵理子(新潟大学大学院)
- J4-4 ヴィジュアル科目におけるメディア活用の進展
小田茂一(愛知淑徳大学)
- J4-5 地球温暖化教育におけるロールプレイング型ワークショップの効果に関する研究
朝倉暁生(東邦大学)

13:30~17:30

自由研究・ポスターセッション(222)

- P-1 図書館を会場とした恐竜の複合現実感体験システムの開発
近藤智嗣(メディア教育開発センター) 有田寛之(国立科学博物館)
稲葉利江子(情報通信研究機構) 水木 玲(トランスファーオービット)
吉見八重 東 智子(愛媛県立図書館) 渡邊里子(日高市立図書館)
池谷 博(鶴ヶ島市立中央図書館) 真鍋 真(国立科学博物館)
- P-2 高等教育におけるNPOと連携した学習モデルに関する研究
田中 徹(関西大学大学院)
- P-3 大学生へのプレゼン・ソフト教育として音楽付き動画を作成させた実践報告
竹内俊彦(茨城大学)
- P-4 ハイビジョン映像教材を活用した論理的思考力育成の実践分析
野口 聡 泰山 裕(関西大学大学院)
小島亜華里 濱田理美 黒上晴夫(関西大学)
- P-5 異文化理解学習における言語グリッド翻訳支援と翻訳結果適正化ルールの獲得
田邊則彦(慶應義塾湘南藤沢中・高等部) 鎌田高德(関西大学大学院)
- P-6 小学校6年 昆虫写真家との活動を通して
○松野成孝 大野 寿(松戸市立六実小学校) 宮武英憲(藤沢市立善行中学校)
三木功次(科学技術振興機構) 高嶋清明(昆虫写真家)

NHK 学校放送に代表されるデジタル教材は、番組や映像作品を一斉視聴した後、個々が再確認・定着、深化・発展の目的に応じてパソコンで自学するという思想で設計されているが、最近は一斉視聴による利用も増えている。それは、プロジェクターやデジタルハイビジョンテレビが教室に普及するに伴ってパソコンの画面を大きなモニターで投影することができるようになったからである。しかし、NHK デジタル教材はホームページ上のクリップを事前にダウンロードして使用することができないため、そのつどインターネットにつなげて提示しなければならない。動画クリップ数が増える傾向にある中で、検索に時間がかかるという問題も生じている。開発者側と利用者側から問題を整理し、デジタル時代の放送教育の方途を探りたい。

K1-1 メディア環境移行期における学校放送番組・デジタル教材の活用傾向に関する考察 -小中学校の教師に対する質問紙調査の結果から-

- 亀井美穂子 (椋山女学園大学) ○ 森田裕介 (早稲田大学)
○ 木原俊行 (大阪教育大学)
鈴木克明 (熊本大学) 堀田龍也 (メディア教育開発センター)
山内祐平 (東京大学) 宇治橋祐之 武田一則 (日本放送協会)
神林 喬 (日本放送教育協会)

K1-2 NHK 学校放送番組『みんな生きている』を活用した
「豊かな心」の育成に関する研究

浅井和行 (京都教育大学大学院)

K1-3 NHK デジタル教材を活用したメディア教育の実践と評価

岡部昌樹 (金沢星稜大学)

K1-4 集団視聴場面における子どもの発言とまわりの人間の役割

村野井均 (茨城大学)

第1日・10月18日（土） 15:45～17:30

課題研究Ⅱ（325）国際教育開発と教育メディア

コーディネータ：中野照海

多くの国際協力プロジェクトにおいて、教育や広報のためのメディアが利用され効果を発揮している。国際理解のための教育においても、外国人が参加する対面型の学習に加え、テレビ会議、電子メールなどのメディアを使い海外とのコミュニケーションに役立てている。本課題研究では、主に海外とのコミュニケーションや海外での教育活動に使われるメディアに焦点を当て、その可能性と問題点について幅広く考察をしていく。ここでは、国際教育開発を中心に討議する。

- K2-1 タイ国において衛星放送を用いた日本語遠隔教育を支援する
シニアボランティアの派遣とその課題
○大作 勝（長崎大学） 秋畑 進（元（株）ジャルウェイズ）
徳久 勲（岩手県立大学）
- K2-2 JICA-Net による国際協力パイロットテスト
菊江賢治（NHK）
- K2-3 モンゴル国における教育番組の制作と活用に関するワークショップの
実際と課題
○篠原文陽児 望月耕太（東京学芸大学） 青木 繁（NHK エンタープライズ）
- K2-4 大学が行う国際協力の実践事例研究
～関西大学と日本福祉大学の協働実践に着目して～
○山本良太 宮地和芳（関西大学大学院）
影戸 誠（日本福祉大学） 久保田賢一（関西大学）

※ お断り

当初予定していた【課題研究Ⅱ】「デジタル時代における映像教材の教育的利用の在り方と利用観点の明確化」は、中止となりました。また応募者が多かった【課題研究Ⅳ】「国際協力、国際理解のための教育メディア活用」は、2日に分けて行うことになりました。どうぞ、ご了承下さい。

18:00～

懇親会（サロンシーボー前テラス）

大会プログラム・第2日・10月19日（日）

9:30～11:30

自主シンポジウム（824）学芸員課程 「視聴覚教育メディア論」はどうあるべきか

企画者 村野井均

博物館法の改正により、施行規則の学芸員課程の科目がこの秋にも改訂される可能性が高い。改定されると、実質的に2010年あたりから新たな「視聴覚教育メディア論」の授業が始まる。その具体的科目名、内容など流動的ではあるが、本学会の一つの柱であり、関係者・講義担当者も多いため、学会としては積極的な役割を果たすべきである。そこで2007年に開催された秋田大会の理事会で、研究委員会が「視聴覚メディア論」の教科書を作成することになり、内容・構成について検討を重ねてきた。

今回のシンポジウムでは、以下3つを目的に議論をしたい。

- ① 博物館学芸員資格に関する議論の現状を把握する。
- ② 博物館の現状について2人のシンポジストからお話を聞き、博物館のありのままの姿や新教科書に何を求めているかを知る。
- ③ 研究委員会が検討している教科書「視聴覚メディア論」の構成案を提示し、学会員からの意見を求める。

司会 黒田 卓（富山大学）

S1-1 博物館学芸員課程科目改正に関する議論の現状

小笠原喜康（日本大学）

S1-2 博物館をデザインする立場から

高橋信裕（文化環境研究所）

S1-3 博物館の現状と学芸員に必要なもの

佐伯平二（愛知工業大学、元名古屋市科学館）

S1-4 視聴覚メディア論試案

村野井均（茨城大学）

第2日・10月19日(日) 9:30~11:30

自由研究5(324) キーワード: メディア活用 学習支援

座長: 村井万寿夫 中川一史

- J5-1 シンキング・ツールを活用した児童の思考支援に関する事例研究
～5年生の社会科における問題解決シートを活用した事例より～
○岸磨貴子(関西大学大学院)
三宅貴久子(岡山市立津島小学校) 黒上晴夫(関西大学)
- J5-2 理科ねっとわーくの活用と評価方法に関する研究
○村井万寿夫(金沢星稜大学) 中川一史(メディア教育開発センター)
日紫喜豊(科学技術振興機構)
- J5-3 小学校国語科における映像メディアを活用する学習の位置づけの検討
○中川一史(メディア教育開発センター) 中橋 雄(武蔵大学)
奥泉 香(日本体育大学女子短期大学部)
- J5-4 メディア創造力育成のための学習プロセスの検証
○前田康裕(熊本市立飽田東小学校) 中川一史(メディア教育開発センター)
中橋 雄(武蔵大学) 佐藤幸江(横浜市立高田小学校)
- J5-5 携帯型ゲーム機を活用した特別な支援が必要な児童への学習支援の効果
○小川雅弘(浜松市立瑞穂小学校) 本多 博(長崎県教育センター)
堀田龍也(メディア教育開発センター)
荻原恵理 正木寛子 坪倉文恵(ベネッセコーポレーション)

9:30~11:30

自由研究6(325) キーワード: 教員養成 授業実践

座長: 篠原文陽児 三橋功一

- J6-1 日本と韓国の教員のICT活用指導力に関する基準の比較
李 禧承(筑波大学大学院)
- J6-2 教員養成課程において「総合的な学習」の映像教材を活用した
教育利用の実践と課題
○青木 繁(NHK エンタープライズ) 篠原文陽児(東京学芸大学)
- J6-3 教員養成大学における授業「情報処理」の目標と演習課題に関する
基礎的研究(4)
篠原文陽児(東京学芸大学)
- J6-4 授業記録の実践をいかに読むか
三橋功一(北海道教育大学函館校)
- J6-5 指導力育成のためのロボットプログラムを使った学習事例
○栗田一誠(上越教育大学大学院)
大澤 裕 村松由基 永島あゆみ 田 園園 馬 君新 栗田るみ子(城西大学)

第2日・10月19日(日) 9:30~11:30

自由研究7(232) キーワード: 国際交流 国際理解

座長: 浅井和行 中田 栄

- J7-1 ICTを用いた韓国大学院生との交流における児童の学びに関する研究
金 一樹(関西大学大学院)
- J7-2 異文化適応のための家族支援と国際理解
中田 栄(愛知学院大学)
- J7-3 国際協力のための学校放送番組の二次利用に関する研究
浅井和行(京都教育大学大学院)
- J7-4 国際交流学習における教師の役割に関する研究
~パレスチナ難民との協働学習型の事例より~
○ 今野貴之(関西大学大学院) 久保田賢一(関西大学)

9:30~11:30

自由研究8(233) キーワード: ケータイ モラル

座長: 石川勝博 岡本弘之

- J8-1 高校で情報モラルをどう教えるか
~「教え込む」から「気付かせる」授業実践へ~
○ 岡本弘之 浅井和行(京都教育大学大学院)
- J8-2 情報モラルのためのケータイサイトを利用したモラルジレンマ授業の検討
鍛治大佑(関西大学大学院)
- J8-3 大学生のパソコンとケータイの利用形態とデジタル・デバイスに関わる要因
石川勝博(常磐大学)
- J8-4 短期大学におけるコンピュータリテラシー教育の有効性
○ 菊地紀子(帝京短期大学) 篠原文陽児(東京学芸大学)

9:30~17:00

自由研究・ポスターセッション(222)

前日と同じ

12:30~13:10

総会(511/ECホール南)

学会事務局

公開シンポジウム(511)「市民とメディア -メディアリテラシーと情報発信-

コーディネータ:大西 誠

近年、メディアの送り手と受け手の関係は変化し、ケーブルテレビやインターネットなどを通じた一般市民からの情報発信も活発になってきている。メディアリテラシーは、学校、研究の場に留まらず、市民とともに考えて行かなければならない課題となっている。市民にとってメディアとは何か、市民と教育現場との関わりはどうあるべきかなど、以下の観点から「市民とメディア」を討論する。

- ① 名古屋のホンモノの中学生が出演する「中学生日記」から放送現場と市民のつながりを考える。
- ② 生徒に映像制作を指導し、各種コンクールで入賞をもたらし、あわせて高校生にメディアリテラシーを学ばせている学校現場からの情報発信を考える。
- ③ ネットによる事件がメディアの「光と影」を浮かび上がらせる。今、何が起きているのか、「ネットいじめ」などから最近の動きを考える。

司会 小川明子(愛知淑徳大学)

S2-1 「中学生日記」のホンモノ中学生 ~放送現場から~

田熊邦光(NHK)

S2-2 映像作品で受け手から発信者へ ~教育現場から~

林 直哉(松本筑摩高校)

S2-3 「ネットいじめの真実」 ~ジャーナリズム現場から~

渡辺真由子(メディアジャーナリスト)

15:00~16:45

課題研究Ⅲ(324教室)映像教育と制作実習

コーディネータ:市川 昌 坂元 多

情報社会に対応する映像教育が多くの大学や小中高の学校教育、生涯学習などで行われている。映画、テレビ、イラスト、アニメなどの作品研究や、ビデオ・カメラによる撮影、パソコンを活用した編集などの制作実習を含めて多様な方法で実施されているが、映像教育のねらいはどこに置くべきか、どのように教えるべきか多くの課題を残している。この課題研究では多様な映像教育の歩みと実践を踏まえ、これからのカリキュラムと教育方法について、理論と実習のありかたを考えてみたい。

K3-1 ノンリニア編集によるハイビジョン番組制作指導の実証的研究

○柘窪優二 亀井美穂子(相山女学園大学)

K3-2 構成主義的なアプローチによる外国語大学における映像制作実習

-小学校教員と連携した英語映像教材制作-

○岩崎千晶(関西大学大学院) 村上正行(京都外国語大学) 久保田賢一(関西大学)

K3-3 大学における映像制作実習実践報告 ～その意義と課題～

佐野博彦（茨城大学）

K3-4 映像実習と実践知としての表現力再考

－エイゼンシュタインの映画演出教授法分析－

市川 昌（江戸川大学）

第2日・10月19日（日） 15:00～16:45

課題研究Ⅳ（325）国際理解教育と教育メディア

コーディネータ：久保田賢一

多くの国際協力プロジェクトにおいて、教育や広報のためのメディアが利用され効果を発揮している。国際理解のための教育においても、外国人が参加する対面型の学習に加え、テレビ会議、電子メールなどのメディアを使い海外とのコミュニケーションに役立てている。本課題研究では、主に海外とのコミュニケーションや海外での教育活動に使われるメディアに焦点を当て、その可能性と問題点について幅広く考察をしていく。ここでは、国際理解教育を中心に討議する。

K4-1 異文化適応と国際理解のための映像教材の制作

中田 栄（愛知学院大学）

K4-2 日本の小学校とミュンヘン・ニューデリー日本人学校との交流学习

○村井万寿夫 岡部昌樹（金沢星稜大学） 久保田真弓 久保田賢一（関西大学）

K4-3 国際交流学习における言語グリッド技術の利用について

－日本と非英語圏の国際交流学习事例より－

○鎌田高德（関西大学大学院） 田邊則彦（慶応義塾湘南藤沢中・高等部）

K4-4 国際交流学习におけるテーマ設定 ～メディア利用の観点から～

○久保田真弓（関西大学） 泰山 裕 遠海友紀（関西大学大学院）

水越敏行（関西大学）

K4-5 国際交流プロジェクト運営におけるメディア活用

○佐藤慎一 影戸 誠（日本福祉大学）

◆ 日本教育メディア学会「日本視聴覚教育協会・井内賞」授与規定 ◆

第1条<目的>

日本視聴覚教育協会の基金に基づき、本会の研究発展に寄与するため、若手研究者の論文に対して「日本視聴覚教育協会・井内賞」を設置する。

第2条<授与回数>

盾と賞金(10万円)を年1回授与する。

第3条<選考委員会の構成>

- 1 委員 (1) 本学会長 1名
(2) 理事会の選任する委員 数名
(3) 日本視聴覚教育協会の推薦する委員 1名
- 2 委員の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 前1項の(1)号委員が、委員長となる。
- 4 委員会は、委員の過半数により会合を開くことができ、出席委員の過半数で議決する。
- 5 委員に欠員が生じた場合には、委員長は、適宜、補充委員を任命できる。なお、当該委員の任期は、前任委員の残存期間とする。

第4条<終了規定>

本賞の授与は、寄託された基金の終了をもって終了する。

第5条<細則の制定>

本賞を授与するための選考基準等、必要な規定については、理事会の議を経て、学会長が定める。

第6条<施行時期>

本規定は、2008年1月1日より実施する。

◆ 編集委員会からのお知らせ ◆

機関誌『教育メディア研究』への投稿原稿募集

学会の機関誌「教育メディア研究」は、常時、投稿原稿を受け付けております。

学会ホームページから、投稿に必要な書類をダウンロードし、原本とコピーを含めて4部、原本の記録されたフロッピーディスクあるいはCD-ROM、投稿票、書留による郵送(封筒の表に「論文投稿原稿在中」と朱筆する)など、必要事項を十分にご確認の上、ご投稿ください。査読、編集、刊行を定期的及び迅速に進めるため、ご協力をお願いいたします。

なお、表記の方法など詳細は投稿規定(学会誌の表紙裏、または学会ホームページに掲載)をご覧ください。また、特に、査読や入稿を円滑に進めるために、英文要約と英語のキーワード表記についても、ネイティブチェックを行うなど、十分にご配慮ください。

投稿に際しては、下記「投稿先住所」まで、必ず簡易書留でご送付ください。

■投稿先住所■ 184-8501 小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内
日本教育メディア学会事務局内「学会誌編集委員会」宛

【会員情報】

新入会員

- <正会員> 酒井 和行 (江戸川大学) 北村 順生 (新潟大学)
川瀬 基寛 (甲南女子大学) 中田 栄 (愛知学院大学)
河合 正典 (京都教育大学) 安西 弥生 (国際基督教大学)
吉田健太郎 (京都教育大学) 大貫恵理子 (著作権教育フォーラム)
池田 純 (京都教育大学) 佐藤 慎一 (日本福祉大学)
小川 雅弘 (浜松市立瑞穂小学校) 原田 穂高 (愛知淑徳大学)
Dawn Pauline Birch (University of Southern Queensland)
岡本 弘之 (聖母被昇天学院中学校高等学校)
- <学生会員> 西尾三津子 (関西大学大学院) 鎌田 高德 (関西大学大学院)
古川 典子 (兵庫県立大学院) 野口 聡 (関西大学大学院)
金 一樹 (関西大学大学院) 菅 勇希 (早稲田大学大学院)
田中 徹 (関西大学大学院)

退会者

鈴木泰裕 大島正豊

正会員 318 名 学生会員 45 名 団体会員 7 団体 購読会員 10 団体
会員総数 380 名・団体 (平成 20 年 9 月 15 日現在)

§

○ 第 5 期 (2006 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日) 役員 ○

(実際の任期は、2006 年度定例総会翌日から、2009 年度定例総会前日まで)

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| 【会長】 生田孝至 | 【副会長】 篠原文陽児・久保田賢一 |
| 【事務局長】 篠原文陽児 | 【総務・会計担当理事】 佐賀啓男 |
| 【編集担当理事】 佐々木輝美・和田正人 | 【研究会担当理事】 村野井均・鈴木克明 |
| 【井内賞選考委員】 生田孝至・小平さち子・中野照海・水越敏行 | |
| 【監事】 南部昌敏・芝崎順司 | |

◆ 学会費納入のお願い ◆

本学会会費は、前納制です。

2008年度（2008年4月1日から2009年3月31日）及びこれ以前の会費納入は、年次大会会場でも受け付けておりますので、会費未納の方は、会場内の学会事務局で、納入をお願いいたします。また、納入の確認もできますので、学会事務局に、お立ち寄り下さい。

正会員の年会費は7,000円、学生会員は4,000円です。

なお、会場では新入会員の受付手続きもしておりますので、これを機会に、まだ学会員でない方へぜひ入会をお勧め下さい

◆ 連絡先住所変更等の事務局あて通知についてのお願い ◆

住所等変更になった場合には、「会員名簿」（2008年3月発行）に記載の用紙、または、「はがき」で、速やかに事務局宛、ご連絡くださいますように、お願いいたします。

学会経費を有効に使用するため、原則として、「受取人転居先不明」等で、事務局宛に送付物等が返送された場合には、その時点で「発送を停止」いたしますので、ご了解ください。

会員の皆様のご理解とご協力を、重ねて、お願い申し上げます。

§

◇ 日本教育メディア学会 事務局 ◇

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学教育学研究室内
電話 042-329-7344

学会ホームページ URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaems/>

E-メール shijaems@u-gakugei.ac.jp

郵便振替口座 00130-4-103021

口座名 日本教育メディア学会